

みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第12号



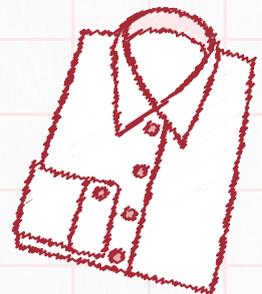
◀福田町の新店舗にて。
齢70にして困難を恐れず
前に進む、決断力のある
敬藏さん。そして高砂
1丁目公園仮設住宅でボ
ランティア活動を行う心
優しい美和子さん

今月の
ひと

あのころの思い出を胸に、新天地で再建 営業再開したクリーニング店

ご近所さんと築いた人情味溢れる交流は“心の宝物”

21年間、中野・港地区を仕事と暮らしの拠点にしていた小松敬藏さんと美和子さん。夫婦でクリーニング店「小松ランドリー」を営み、あたたかい交流があるご近所の方々と共に、地域での暮らしを送ってきました。あの日、2人で市内の配送に出ている間に津波で店舗兼住宅が流出。しかし2人は「お客様が待っている」と、震災後も客先へ挨拶にまわり、同業仲間のクサカクリーニング店の工場を借り、一緒に仕事をさせていただきました。その後も生活と事業の再建に向かって一度も歩みを止めず奔走し、今年3月16日、福田町で再スタートを切ることができました。早期の再建が実現したのは、ご近所の方やお客様、住宅メーカーや機材商など、多くの方の応援があってこそと、敬藏さんは感謝の気持ちを常に口にしています。「特に港地区に住んでいたころは、ご近所の方に本当に良くしてもらいました。それにあそこは景色がとても良くてね。いいところだったんですよ。今は形あるものは何も残ってないけど、心の中に思い出が残っていますから」感謝の気持ちと港地区での思い出を抱いて、今日も新天地で前へと歩む2人です。



2012

11月

復活に関わる人びと

岡田地区の農家で組織される岡田生産組合。同組合の中にみそ加工班を設置し、地場産みそづくりが受け継がれてきました。昨年の津波で沿岸部にあった施設は全て流出しましたが、組合員の強い信念と努力、多くの協力者に恵まれて今年三月、新たな場所に加工施設が完成。そして新施設でつくったみそが、いよいよ十月から販売開始となりました。一年で復活できたことへの感謝の声を届けます。

待ってくださる皆さんに感動を届けたい!



～たくさんの方の応援に感謝～

みそ加工班からひとこと

※地域名は出身地

● 遠藤すゑのさん 副班長/南蒲生 ●

昨夏ごろから、加工班の3役（班長、副班長、会計）が準備委員会として打合せや備品調達を進めました。本当に多くの方々のおかげで新施設ができ、加工班が揃って働く場所をもたせていただきました。皆、自分たちの作業が身についていたんですね。以前と同じ味のおいしいみそができました。ずっと待ってくださったお客様にも、きっと喜んでいただけます。



副班長の遠藤すゑのさん(左)と、会計の遠藤幸子さん

● 遠藤幸子さん 会計/南蒲生 ●

震災のショックでなかなか自分の気持ちを整理するのが大変でしたが、準備で忙しくするうちに、「また皆とみそづくりができるんだ」と実感していきました。40代から70代のメンバーが同じ作業を一緒にし、想いも含めて身体で後継者へ技術を伝承しています。皆さんへみそを通じて感動を届けたい! ただそれだけです。作ってる自分たちが感動していましたから。おかげさまで。

● 中島はつ子さん 南蒲生 ●

家の事情で参加できない日が多く、申し訳ないと思っていました。メンバーへの感謝の気持ちでいっぱいです。

● 二瓶京子さん 南蒲生 ●

働ける場があったことに感謝しています。ただただ一生懸命、皆さんの後ろについて行きました。試食したみそ、おいしかったあ。

● 菅野陽子さん 上岡田 ●

私は、もともと他の会員組織でみそづくりをしていた経緯があり、指導役も兼ねて2007年から4年間、加工班長を務めました。「地場産の原料を使って、地元農家の女性たちがいきいき働く機会を」と、始まった取り組み。自分で食べておいしい物を消費者へ提供したい想いは、当初と変わりません。味、色も良く、上々のできます。

● 瀬戸芳子さん 新浜 ●

また皆と一緒に仕事ができてうれしい。ひとつの仕事が次の仕事を教えてくれる感じでした。心待ちにしていたみそです。

● 菅井すわさん 堀切 ●

私のような年齢で、このように働ける場があるのはありがたいこと。皆で協力し合って、この活動を継続したい。

地域の復興につなげたい

岡田生産組合 遠藤源二郎 組合長

岡田地区の農家、約三百戸で組織される「岡田生産組合」は、一九八〇年設立の岡田水田協議会が前身。その後「岡田転作組合」に名称が変わり、「二年三作体制（稲、麦、大豆）」を手掛け、二〇〇七年から現在の「岡田生産組合」になりました。組合として、「地場産作物の付加価値を高める取り組みができないか」ということで、一九九九年、みそ加工施設を建設。みそ加工班員には、地元農家の女性たちを雇用。同組合員が育てる一等米と優良品質の大豆を使用し、原料にこだわったみそづくりを続けています。

震災から四日後、全て流出してしまった元の加工施設を見た足で、避難している加工班の皆さんを見舞った時には、心身が疲弊した様子を前に、「今後」のことを口にできませんでした。しかし、「だからこそ雇用の場を早急に」と考え、その二日後には再び加工班の皆さんを訪問。「復活するように頑張るから」と声をかけ、その後は、土地の確保や助成申請手続きなどに奔走。本当に多くの方や機関の協力をいただいて、復興に辿りつきました。

今後も、岡田の地域産業として定着したみそづくりを、順調に継続できるように努めていきます。



岡田・南蒲生出身の遠藤さんは、同組織の組合長を務めて12年になります。将来を見据えた農業体制づくりに、ますます励む日々です
※米を通じて農業振興と地域交流に貢献した、個人・団体を3年に1度表彰する「オリザ賞（河北新報社、東北放送共催）」の第6回「オリザ賞」大賞を、岡田生産組合が受賞。11月19日、仙台国際センターで開かれる「県農協大会」で表彰式が行われます

「岡田産づくり」復活の軌跡

3 落成式



▲3月27日、予定通りに無事落成式を迎え、安堵する関係者の皆さん。施設の内覧会も行われました

2 上棟式



▲2012年1月11日の上棟式で撒いた紅白の餅は、加工班の皆さんが手づくりしたもの。この作業から「本当にみそづくりできるんだ」と、現実感が増えていきました

1 地鎮祭



▲2011年12月1日の地鎮祭。新加工施設は、岡田小学校近くにあるJA仙台的敷地内に建設

販売



販売先

たなばたけ高砂店
(JA 仙台・農産物直売所)
所在地 宮城野区福室 2-7-30
TEL 022-388-7318
営業時間 10:00~18:00
定休日 水曜日、年末年始
※10月中旬から店頭で扱われています

岡田の男性たちが作物（米と大豆）を作り、女性たちがそれらを加工したみそを作る。夫婦が協力して、まさに「二人三脚」で取り組む地場産みそ「岡田産づくり」は、震災を機に、ますます守られていくべき大事な地域産業となりました。

また、地元の女性たちで構成される加工班の活動は、地域の伝統のひとつとして、先輩から後輩へと受け継がれ続けることでしょう。

4 みそづくり



▲1年ぶりの仕込み作業は、「緊張感がありつつも身体が仕事を覚えていた」と、皆さんが口をそろえておっしゃいます

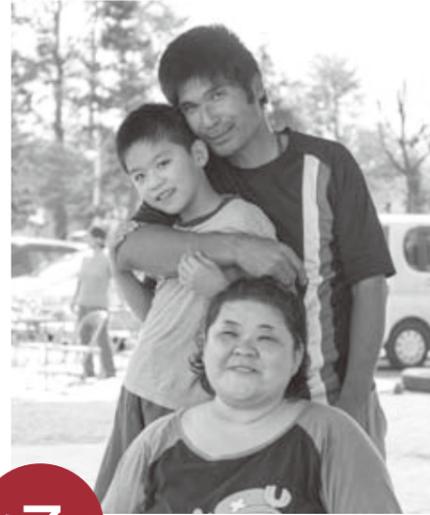


▲「あうんの呼吸」と「和」で作業が順調に進みました



▶年上の経験者から年下の方へ、想いと技術が身体を使って受け継がれていきます

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



◀本当にいろいろな方に助けていただきました。「クヨクヨすんな！」って(笑)(清二さん)

第7回

阿部清二さんご一家(中野・西原)

まずは自宅を事務所にして再建

西原に自宅と介護事業の事務所を構えていた清二さんでしたが、津波で全て流出。親戚宅に避難させてもらった後、昨年5月16日から、中野栄の借り上げ民間賃貸住宅に妻の千香さん、息子の匠汰さん、母のいづよさんと、家族4人で暮らしています。介護事業という仕事柄、どんな状況にしろ「ちょっと待って」ということが無く、昨年の3月21日には、お客様から「来てほしい」と連絡を受け、そこから事業が再開。自宅と事務所を兼用する生活が今年9月まで続きました。

人は支え合いながら生きていく

「やらなければいけないことが多すぎて突っ走る毎日。沈んでられない!」と、昨年は必死に過ごした千香さんが、震災から1年が過ぎたころ、振り返る時間の余裕ができたからか、将来への不安が増し、体調を崩しました。そんな千香さんに変化が訪れたのは、今年7月、匠汰さんの8歳の誕生日。「生きているからこそ味わえる日常の幸せを、息子に教えてもらいました」と、千香さん。この10月には、中野栄4丁目目トレーラーハウスの事務所を設置した阿部さん夫妻。「人という字が示すように、支え合って」と、笑顔の取材になりました。

次回は中野地区出身の方にご登場いただく予定です

●和田のグラウンド(公園)にはよく遊びに来てる。十月の秋季大会が俺の小学校最後の公式戦。一試合でも多く戦いたい。この前は市の選抜に選ばれてフル出場。四番だった。今後は高砂中で野球をやる。
小野大介さん

みらいん編集部 取材ダイアリー 9月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

16日(日) みんなで歌おう 花は咲く♪イケメン'ズと共に (高砂市民センター)



高砂地区で子どもを元気にしようと活動する「かむり川絆の会」の音頭で催された音楽会はイケメン'ズの登場で大盛況。締めは、参加者全員で歌詞を噛みしめて歌った『花は咲く』でした。

27日(木) 学校水田～稲刈り～ (岡田小学校)



5年生を中心に4月から始まった学校水田。好天に恵まれて、児童たちは、意気揚々と稲刈りに励みました。昨年は震災の影響で米づくりができなかった6年生も参加しました。

28日(金) チューリップ新品種 「TOHOKU」で交流 (中野栄小学校)



オランダ・アムステルダム市長ら16名が中野小学校を訪問し、6年生と一緒にチューリップの球根を植栽。両国の友好を表すピンクとオレンジの花びらの配色が、咲き始めと満開で反対になる珍しい品種です。

30日(日) 草刈り作業と料理講習会 (鶴巻1丁目東公園仮設住宅)



「自分たちが住む場所は自分たちできれいに」と、住民約40名が参加して草刈りを行いました。その後は、割烹の料理人を講師に招いて料理教室を実施。宮城県と山形県の芋煮鍋を作り、借り上げ民間賃貸住宅に暮らす方々も招いての交流となりました。



読者からひとこと

●母と娘と、三人でひと間の仮設住宅に住んでるから狭くてね。岡田・屋倉の自宅は解体したから、今後は復興公営住宅にお世話になろうと思ってるの。カラオケの練習がストレス解消法かな。
渡辺八重子さん

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、移転・現地再建グループがそれぞれ話し合いを進めています。



▶「この意向調査によって、移転が良い方向へ進むといいなあ」と現地再建グループからも応援の声が上がりました

10月10日(水) 全体会および事務局会議

- 意向調査の内容確認
- 移転候補地案についての確認
- 若者の会、女性の会で出された意見の紹介

当日の様子 町内の将来設計をより具体化していく為の意向調査について、質問項目の確認をしました。移転候補地それぞれの面積や造成宅地費については、あくまで概算であり、移転世帯数によっても価格が変動するとの説明がありました。代表からは「居久根再生の勉強会や、行政の局長クラスとの意見交換を開催予定。意向調査は10月26日が締め切りである」とのことでした。

問い合わせ先: 代表 芳賀正 090-4042-9464
会合は随時開催
住民説明報告会(町内会定例会合同会議): 毎月最終日曜日 岡田会館

新浜復興の会

新浜の新たなまちづくりを検討する現地再建グループと、上岡田・久保野地区への集団移転を目指す移転再建グループが、それぞれの復興を果たすべく活動しています。



▶新浜の現状図には、世帯ごとの現地再建、移転、検討中の意向が記されていました

9月29日(土) 第1回現地再建グループまちづくり検討会

- 新浜現地再建状況の確認
- これまでのワークショップの意見・質問の整理

当日の様子 この日は、現地再建グループと新浜町内会役員が一堂に会する1回目の会合でした。当日の配布資料は、住民意向調査や世話人会からの意見をもとに、新浜の現状と将来像を図化したもの。これを叩き台に、12月を目標に市への要望書として練り上げることが確認されました。また、まちづくりの優先順位として防災に関する事項を最優先することも意思の統一が図られました。

問い合わせ先: 代表 遠藤芳広 090-2020-4002
会合は随時開催

中野小学校区復興対策委員会

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

10月7日(日) 第30回中野小学校区復興対策委員会

- 西原: 町内会の75歳以上の方を対象とした「いきいきサロン」を2年ぶりに実施し、市内各地から二十数名が参加。10月7日の西原定例会では、以下の質問があった
 - ・移転先ごとに行われる意見交換会への関わり方について
 - ・中野地区の航空写真入手方法について
- 蒲生: 住民の皆さんへ情報案内を送付

- 仮設住宅自治会から
 - 鶴巻1丁目東公園仮設住宅: 9月の夜中、2回にわたり公園内東屋で外部の者による不審火があった。東警察署、市と三者で話し合ったが、「自分たちの身は自分たちで守るしかない」と実感し、夜中や早朝、見回りを実施中

- 仙台市教育局から
 - 9月に実施された、中野小学校及び荒浜小学校保護者に対する説明会の内容を報告

- 来年度も他校への併設を継続することについて保護者から賛同を得た
- 学校の今後のあり方については今後も保護者と話し合いを重ねる
- 校舎等の取り扱いについては保護者全体から意見収集できる手立てを今後検討予定

当日の様子 この日の主な協議事項として、同委員会を立ち上げるきっかけのひとつであった「中野小学校の今後」について、仙台市教育局6名と小学校同窓会役員2名が出席し話し合われました。委員会側から、長い歴史のある中野小学校の存続を要請しました。なお復興事業局側からは、10月実施予定の「個別相談会」と、10月から11月末まで実施予定の「蒲生北部地区における水準測量及び現地測量」について報告されました。

問い合わせ先: 委員長 高橋實 022-258-3068
定例会議: 毎月第1、第3日曜日16:00～
鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

被災地レポート

取材地

焼肉・ホルモンけんちゃん (和田地区)

新鮮なホルモンを提供
地元の人気焼肉店

「一日おきに肉を仕入れていきます。無くなったらやめる。新鮮なものを出して、お客さんに喜んでもらえればと思っています。それで三十年続いているんです」。厨房から店内を見つめて語るのは、蒲生・和田地区で「焼肉・ホルモンけんちゃん」を営む片桐健二さん。

鉄板の上でジュージュウと美味しく焼ける肉は、新鮮なものばかり。肉のメニューはカルビや豚タンなど七品ほどとシンプルですが、丁



住宅地の中でも目立つ大きな看板。写真左手奥2階のほど先に海岸線があります

寧に手が加えられています。一番の人気メニューは豚ホルモン。臭みがなく、濃厚な味わいが楽しめます。「新鮮なものを塩水できれいに洗って出しているから、全然臭くないんです。初めて来るお客さんは皆びっくりするね」片桐さんは誇らしげに語ります。

現在は毎週末お客さんでいっぱいになる店内ですが、きれいな壁や床は震災後に修繕されたものです。震災時は約二階の津波を被り、「何も無くて残骸だらけ」という状況。それでも、片桐さんは「すぐに店を再開しようという気持ちになった」と言います。店の片付けをしているところに、常連さんがやってきて「あ、生きてたんだ。本当に良かった」と声をかけてくれたことが再開に向けての大きな力となりました。

災害危険区域での再開に 遠方からもファンが来店

親類の家や、慣れないアパート暮らしを続けながら店舗再建を目指し



香ばしく焼きあがった、名物の「豚タン」

ました。昨年十二月から店舗の改修工事をスタートさせ、今年三月に営業を再開しました。沿岸部の養豚場が津波の被害を受けたことで、仙台の食肉関連市場では豚肉の数が少なくなっているといわれています。片桐さんの仕入れ先だった牛肉専門店も津波で流されてしまいました。様々な制限はあっても、なるべく震災前と変わらないよう努力し、美味しい肉を提供し続けています。

三月に店を再開するとすぐ、常連客が戻ってきました。遠方から通うお客さんが多く、宮城県外から足を運ぶ人もたくさんいるそうです。和

田地区は津波で大きな被害を受け、住民の多くは仮設住宅や別の場所に移転して、戻ってこれない状況です。片桐さんは「俺は店を再開できたけど、仕事を失った人もいる」と地域の現状を悲しそうに話します。かつては、消防団の会合や運動会後の打ち上げなどで、地域の人がお店を使ってくれることも多かったのですが、今はほとんどありません。それでも夕方になれば、おいしい肉やホルモンに魅せられたファンで店内が賑わいます。地域の様子が変わってしまっても、お店が新しくなっても、そこにある肉の味と片桐さんの温かい雰囲気は変わりません。お客さんのお腹と心を満たすため、片桐さんは「倒れるまでずっと続けるよ」と笑顔で話しながら、厨房に立ち続けます。



厨房で仕込みをする片桐さん

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

赤い羽根 地域ボランティア活動支援事業 第5次応募の受付を開始します

宮城県共同募金会では赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業として、東日本大震災被災地の地元住民グループなどによる被災者支援を目的としたボランティア活動を支援する助成金の第5次応募を受け付けます。

対象 宮城県で地元住民のグループなどによる、助け合い活動を行う住民団体やボランティアグループ、NPO法人など、県民5名以上で構成される非営利団体

対象事業例 ①引越・片付け、見守り訪問などの生活支援活動

②季節の行事、住民交流などのサロン活動

③子どもの学習支援や一時預かりなどの子ども支援 など

配分金額 1団体1回につき10万円まで

応募受付期間 第5次応募：12月3日(月)～12月27日(木)必着。助成決定平成25年1月下旬

応募方法 各団体から市町村共同募金委員会を通じ申請します。仙台市内の団体は下記にお問い合わせください

問 022-223-2026

仙台市社会福祉協議会地域福祉課地域福祉係

多重債務でお悩みの方はいませんか？

東北財務局では、専門相談員を配置し、自らの収入で返済できないほどの借金を抱え、お悩みの方からの相談に応じています。必要に応じて弁護士・司法書士などの専門家に引継ぎを行います。相談無料、秘密厳守。

対象 多重債務でお悩みの方(自営業者含む)

時 月～金曜日9:00～17:45(祝日、年末年始除く)

場所 東北財務局 金融監督第三課
(青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎4階)

問 022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)

東北財務局 金融監督第三課

支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅(以下、みなし仮設)にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
第2回 みやぶくサロン	塩釜市、七ヶ浜町、多賀城市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町、福島県で被災された方	11月8日(木)	10:00～12:00	若林区中央市民センター別棟	笑う門には福来るお笑い講演とお茶飲み交流会	要(電話)	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559
折り紙&茶話会	台原コミュニティセンター周辺にお住まいの方などなたでも	11月15日(木)	10:00～12:00	台原コミュニティセンター	折り紙づくり(講師/折り紙コスモスグループ)	不要	支えあいセンター あおは 022-217-7234
体を動かそう	福島県から避難された方	11月15日(木)	10:00～12:00	泉区中央市民センター	皆で体を動かすサロン	不要	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
お茶っ交流会	宮城野区中央市民センター周辺にお住まいのみなし仮設の方	11月17日(土)	10:00～12:00	宮城野区中央市民センター	クニカルアートで作る年賀状	要(電話)	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
び〜ちサロン	福島県から避難された乳幼児のいる世帯	11月28日(水)	10:00～12:00	富沢市民センター	同郷茶話会、アロマで「におい袋」作成、ハンドトリートメント(希望者)	要(電話)	支えあいセンター たいはく 022-217-7234

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

けんいんコラム

からだ編 食感のことば・・・
日本語は少ないの？多いの？

おせんべいを食べた時に「ぱりぱり」「サクサク」とお口の中でおいしい感覚が広がります。これが『食感』で、歯を支えているセンサーが感じとります。この食感はいろいろなことがばあわされますが、多くは擬音語や擬態語からなりオノマトペともいわれます。

世界のいろいろな国でこの食感のことばの数はどれくらいあるのでしょうか？料理で有名な国のフランス語で二百二十六語、中国語で百四十四語、ドイツ語が百五語、なんと英語は七十七語となっております。これらと比べると日本語は少ないのでしょうか？多いのでしょうか？なんと四百四十五語あり食感に関することばは非常に多いのです。驚きです！日本の食生活のなかに食感が深く関わっていることがわかります。

甘み、塩み、苦み、酸っぱみ、うまみと味を感じますが、ただ味だけを感じている食事はおいしくありません。この五味に食感が加わって初めておいしい！と感じます。まさに第六の味覚といえます。よく噛むことは食を豊かにします。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士 柏崎 潤

柏崎 潤 (かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯学教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

クロスワードパズル

出題 石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2	3	4	
5		6		
		7		8
		A		9
10	11		12	
	13		14	
15			16	17
B			C	
		18		19
				D

タテのカギ

- ①これからの時期、漬け物や鍋に最適。「松島純二号」などの品種で知られ、地元を中心に消費される仙台〇〇〇〇
- ②宮城県が全国トップクラスの生産を誇る野菜で、仙台〇〇鍋の名で食されたりします
- ③スポーツなどで、次のシーズンのこと
- ④〇〇〇〇期は、農作業がひまな時期
- ⑦テレビや加湿器など、自宅で使う電気器具
- ⑨かつて八甲田やムーンライト仙台などの〇〇〇列車が走っていました
- ⑪日本古来の数学
- ⑫これから、おへそくを作る家庭も多いことでしょう。やがて〇〇〇祭で焼くのが、おなじみのならわし
- ⑭宮城県庁には、〇〇〇と暮らしの安全推進課があります
- ⑮種類が多々ありますが、仙台市に納めるのは、市民〇〇や固定資産〇〇など
- ⑰ことわざ。〇〇から出たまこと

ヨコのカギ

- ①江戸初期の仙台藩士、支倉常長。苗字の読みは？
- ④〇〇の養殖の北限にあたる三陸。11月から乾燥、加工が急ピッチに
- ⑤和の甘味の名物、鳴子温泉の〇〇だんご
- ⑥ひろせ号、わかば号などは、仙台市の〇〇〇図書館
- ⑦11月23日は〇〇の日。三陸を代表する冬の海の幸です
- ⑧〇〇の外といえば、部外者の立場に置かれること
- ⑩11月23日～25日、大崎市の〇〇〇山地域で、バルーンフェスティバルが開かれます
- ⑫白身で独特の見た目。〇〇〇汁はこれから旬
- ⑬7月のリトルリーグ全国大会で、西山中の伊藤投手が6回を完全試合、しかも全打者から〇〇〇〇を奪って話題に
- ⑮ことわざ。〇〇は急げ
- ⑯野党の反対語
- ⑰ことわざ。笑う門には〇〇来たる
- ⑱自分の両親の母親

前回のこたえ

A イ B モ C ニ D カ E イ
でした。

1	2	3	4	5
オ	ト	イ	リ	ア
6	7	8	9	10
タ	ホ	テ	イ	マ
11	12	13	14	15
キ	ク	リ	ト	ウ
16	17	18	19	20
シ	コ	レ	エ	ニ
21	22	23	24	25
カ	マ	エ	モ	ド

編集後記

昨年12月の地鎮祭から取材させていただいてきた「岡田産づくり」が、店頭に並びました。田畑から、海から届くさまざまな実りの知らせが、皆さんにとっても明日への糧でありますよう。(芳賀)

10月上旬に娘が産まれ、環(たまき)と名付けました。指や爪が精密機器のように小さく出来ています。すくすくと健康に育つことを願って、神棚に手を合わせている毎日です。(おおが)

。。。お住まいを移転される方へ。。。

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越し後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL：022-390-5755
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp